日本共産党区議会議員
こんにちは
伊藤和彦です
自宅・足立区花畑6－7－23
足立区役所・電話3880－5111（内線4650～4654）
日本共産党議員団・直通・3880－5770～1
http://www5.famille.ne.jp/~k-itou/index.html

学力調査（学力テスト）の実施および公表に関する要請で区教委に申入れ

参院選のなか7月17日、日本共産党足立区議団は区教員委員会の斉藤幸枝教育長に対して「足立区の学力調査（学力テスト）の実施と公表に関する提言」を提出、懇談しました。その内容をお知らせします。

区議団が提言

区独自の学力テストの中止と学校の序列化につながる公表を止め、予算の格差中止を

申し入れをする区議団　7月17日

7月16日、区教委は当該校の保護者会並びに記者会見で調査結果を発表し、不正行為を起こした学校の責任を認め、謝罪しましたが、こうした不正行為は、決して現場の一部管理職や教師だけの責任ではありません。

区教委の調査結果と今後の対応では不正事件の背景と原因について、区教委が進めてきた「教育改革」についての言及と反省がなく、再発防止と子どもたちのすこやかな成長と真の学力向上を願う保護者や教育関係者の期待に応えるものになっていません。

区教委は、04年都教委の学力テストで23位となった際、教育長（前内藤教育長）が23位から脱却をかかげ「学力向上」対策を推進しました。

その結果、各学校では学力テストが行われる直前の冬休みに「特別対策」が取られ、05年3月区議会には「学力向上に向けた冬季休業中の取り組みのまとめ」が報告されました。その中には、小中学校の中で「東京都の「過去問題集」（過去問）を全員に配布し、宿題としていたことも明らかになっています。

区教委は調査をするまでもなく、知っていたことなのです。

また、06年に都教委のテストの説明会で過去問のCDを配布し、「上位校」の活用例をパンフで宣伝し、その活用状況について「調査」という名の点検を行ないました。さらには、「上位校」の校長をほめ上げ、学力テスト結果によって学校予算に格差付けまでして競争を煽りました。

こうした区教委の姿勢が、教育に歪みや不正行為をもたらした真の原因であることは明白です。

（裏につづく）

7月29日投開票で行われた参議院選挙の結果

足立区選挙管理委員会によれば以下のとおりです。

参院東京選挙区

候補者	党派	今回 得票数	今回 得票率	前回 得票数	前回 得票率
田村智子	日本共産党	33015	12.21%	26377	10.08%
山口なつお	公明党	51619	19.09%	54812	20.96%
大河原まさこ	民主党	40656	27.99%	75746	28.97%
すずきかん	民主党	35032			
丸川珠代	自民党	32351	22.80%	49812	19.05%
保坂さんぞう	自民党	29288			
川田龍平	無所属	23590	8.72%		
中村慶一郎	国民新党	6810	2.52%		
杉浦ひとみ	社民党	5966	2.21%	7645	2.92%

参院比例代表

	今回 得票数	今回 得票率	前回 前回得票数	前回 前回得票率
日本共産党	29750	11.07%	28522	11.02%
民主党	95622	35.57%	87949	33.97%
自民党	68275	25.39%	67953	26.25%
公明党	46413	17.26%	53729	20.75%
新党日本	10273	3.82%		
社民党	7634	2.84%	11184	4.32%
国民新党	4335	1.61%		

教育改革を考える

フィンランドの学力が世界一になったのは「競争」ではなく「協同」の教育だった

過去の全国いっせい学力テストが実施されたときにも、同様の事件が起きている事をみれば、原因がどこにあったかは明らかです。

日本共産党区議団はいっせい「学力テスト」について、すでに、区・都の段階を問わず、「学力テスト」の実施とその結果公表が学校と子どもたちを苛烈な競争に巻き込み、傷つける結果をもたらすことを指摘してきました。

また、足立区が推進してきた学校選択の自由化、学力テストの実施など「教育改革」は文科省が推進している「競争教育」の先取りであり、学校教育を歪めていることも明らかにしてきました。

足立区教育委員会は今回の事態を自らの誤りを正す重要な機会とうけとめ、以下の事項を実施し、必要な改善を行うよう提言しました。

1、学校、子どもを競争にまきこみ、ゆがみや不正行為をもたらす直接の原因となる学力テストの結果の公表は中止すること。

2、学力テストの結果を学校予算の格差づけに反映させることも撤回すること。

3、子どもたちの学力向上のためには、学校内で行われているテストで充分であり、区独自の学力テストは必要ないのでやめること。

これに対して、斉藤幸枝教育長は学力テストは今後も実施するが発表の仕方は第三者を入れた検討委員会で検討する。学校予算への格差はできないと発言しました。

いま、過度な競争をもちこむ「教育改革」がもたらす弊害が足立区の学力テストの不正事件で話題となっていますが、国際学力調査(ピッサ)でトップになったフィンランド。どんな教育が行われ、どう生きる力を高めているのでしょうか。フィンランド教育研究の第一人者の中嶋博先生(早稲田大学名誉教授)が行った足教組の講演会後の話をまとめてみました。

■フィンランドがトップになった理由はなんですか。

○中嶋　20～25人の少人数教育、子どもが読みたくなる工夫に満ちた教科書、半年間の教員実習を含む5年間の修士課程からなる教育養成も大きな要因でしょうし、学習理解の進んでいる子が別の子どもに教えるという助け合い教育ではないでしょうか。落ちこぼれを出さないことを重視した補習授業の体制も充実しています。

■日本は「知識量」フィンランドは「生きる力」

○中嶋　日本は知識量を増やすことに比重をおいた教育で教科と総合的な学習の時間をわけていますが、フィンランドでは教科の中に社会や現実との関連性や生きる力が盛り込まれているのです。

フィンランドの学習指導要領の定義には、7つの具体的項目が挙げられています。

それは、人間としての人格的発展、参加型市民性と起業家精神、環境・福祉・平和に対する責任、人間とテクノロジーなどです。

これらが教科に横断的に盛り込まれます。

授業時間は日本より少ない

■年齢平均標準授業時間の比較

	日本	フィンランド
7～9歳	709	530
9～11歳	761	673
12～14歳	875	815

(時間)

「図表でみる教育OECDインディケータ(2004年版)」より。データは02年。

■学校が好きだから世界一

フィンランドでは教科にプロジェクト学習を取り入れています。

それは達成感を得られるばかりでなく子どもたちは知識を総合的に使ってみることで自分から主体的にまた学習に向かうのです。

いま日本で学力低下論がいわれ総合的な学習への見直しや授業時間数増などの議論が盛んだがフィンランドは日本よりずっと授業時間が少ないですよ。

――「学校が好きで、来ることが楽しいということが何より大事なんです。」その結果、世界一位になったのでしょう。

○中嶋　そうなんです、学校嫌いなんてこの国にはほとんどいないんです。

■「意志ある学び」だから学び続ける

フィンランド人の読書率が高いことは知られています。

ヘルシンキの本屋さんには沢山の人がいて驚きました。図書館の利用率は日本の5倍です。

学びは苦しみではなく、喜びなのです。だから大人も学び続けられるのです。いま日本は学力低下と騒いでいますが、学校教育がテスト目的になり、点数の競争に汲々としているため、意志を持って学ぶことを失っていることこそ問題です。

■競争より協同で共に学びあう方が「生きる力」がつく

フィンランドでは格差や競い合うのではなくお互いに積極的に教えたり学ぼうという姿勢が根付いています。

競争で人は伸びません。競争でやる気にさせるより、プロジェクトで何かを生み出すことの達成感や喜びのほうが学ぶ意欲にとても効果的です。フィンランドがそれを証明してくれました。

日本でもこうした教育をすすめている自治体・学校があります。

静岡県富士市の岳陽中学校や茅ヶ崎市の浜之郷小学校です。日本共産党区議団の文教プロジェクトチームでは視察していますが、そこでは大きな成果をあげています。